

報 告

近畿病院図書室協議会第96・97回研修会

研修部

[第96回研修会]

日 時：2001年10月24日(木) 10:30~16:45

場 所：住友病院講堂

プログラム：

1. 『医学の基礎知識』～神経内科領域～老人
医学の基礎知識－脳の若さを保つには－
住友病院 神経内科主任部長 宇高不可思氏
 2. 雑誌契約更改の現状－アンケート結果報告－
研修部
 3. デジタル時代の出版メディア～図書館はどう
変わる？～
日本出版学会会員・旭屋書店勤務 湯浅俊彦氏
 4. 『IT-Station』電子ジャーナル管理システ
ムの紹介とデモストレーション
インフォトレーダー株式会社 高柿義一氏
株式会社ハザン商会 阿賀嶺恭一氏
- 出席者数：24名(会員22、会員外2)

今回の研修会は時期的に洋雑誌の発注時期にあたるため、電子ジャーナルの出版状況、管理など今後どうしても必要となる知識に直結する内容であった。出版形態もだんだんと変化してきている。それに伴うだけの図書館サイドの知識の積み重ねが日常業務でも大切になってくると思えた。

電子ジャーナル導入にあたっては煩雑なパスワードの管理など、問題は多い。しかし、価格にはすでに含まれている場合もあって、できるだけ利用できる環境を整えてゆくことの必要性を痛感した。

医学の基礎知識では脳の老化についてのお話であった。高齢者社会になってきたが、我々自身の老後を考えてみるよい機会になった。

[第97回研修会]

日 時：2002年1月24日(木) 10:45~16:45

場 所：京都市国際交流会館

プログラム：

1. 『病院業務の基礎知識』病院薬剤師の薬剤
情報提供
京都市立病院 薬剤長 今川文典氏
 2. 病院で利用できる医学情報サービス
(株)サンメディア 松下 茂氏
 3. 闘病記データベース
鳥取大学附属図書館医学情報係 山崎賢二氏
 4. 患者さんへの医学・医療情報提供
京都南病院 院長 戸津崎茂雄氏
- 参加者数：23名(会員21、会員外2)

今回の研修会では、患者さんへの医学・医療情報の提供がメインテーマとなった。病院図書室での患者さんへのサービスはまだほとんど行われていないのが現状である。しかし、昨今の診療情報の開示など、患者さんの求めに応じる姿勢がとられるようになってきている。京都南病院の事例では、地域住民を含んだ人々への医療情報提供という、難しいが、それだけに意義のある図書館活動の報告であった。参考にして続いて行く図書館が増えて行けばと切に思う。

情報提供では薬剤師の存在も重要である。今回は病院薬剤師の立場から、院内・院外への薬剤情報の提供についてのお話を伺った。調剤するよりも、患者さんともっと接したいというお言葉が印象的であった。

また、闘病記データベースという図書館員が作成した、患者さんが最初に求めるであろう情報源として今後の展開を期待したい。

医学情報サービスの紹介ではオープンアーカイブを中心に、あまり耳にしたことのないサイトの紹介もあり、実際にアクセスしていただいたので、興味深く聞いた。今後の参考にしたい。

(文責：林 伴子/社会保険神戸中央病院)